

保護者の皆様

令和6年10月2日

川崎市立稲田小学校
校長 青木 あゆ子

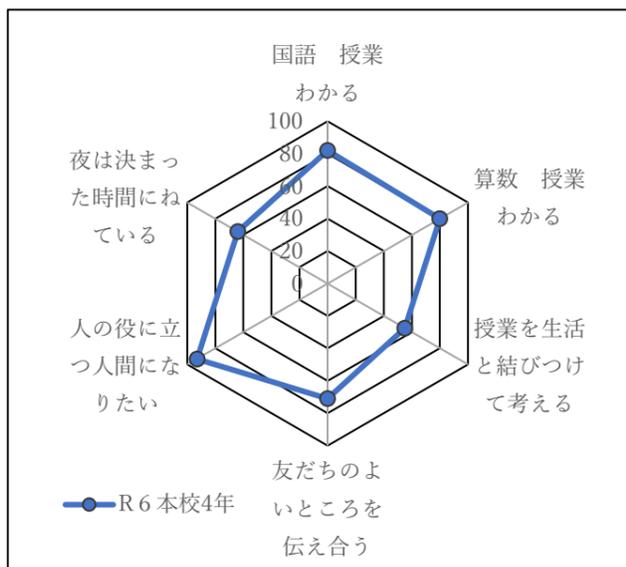
令和6年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

仲秋の候、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月11日(木)・12日(金)に行いました4・5・6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と4月18日(木)に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標(育成を目指す資質・能力、目指す児童像等)の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校教育報告会や説明会等でもお伝えします。

学校教育目標(育成を目指す資質・能力、目指す児童像等)

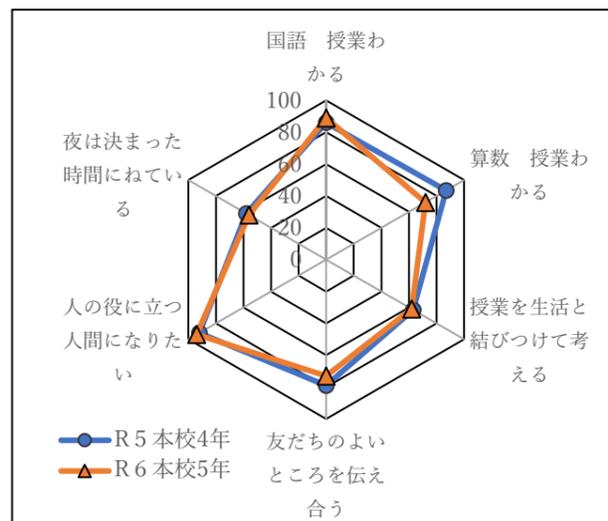
- 「い」・・・いろいろな考えを認めるとともに学び、自ら追究する子
 - ◆多様な考えを認め合える子 ◆課題に粘り強く取り組める子
- 「な」・・・なかまを大切に、自分を守り明るい未来を描く元気な子
 - ◆主体的に活動に取り組む子
- 「だ」・・・大好きなふるさとを守り愛する子やさしい子
 - ◆挨拶や感謝の言葉を言える子

令和6年度 川崎市学習状況調査 4年生



- ・「算数の授業が分かる」は80ポイントで、市平均の85ポイントをやや下回りました。そこで今後は、GIGA 端末等を活用した個別最適な学びの充実をより一層図ります。また、児童一人ひとりが学習した内容について「わかった」と実感できるような深い学びに向けて授業を改善し、実践していきます。
- ・「授業で習ったことを普段の生活と結びつけて考えている」は55ポイントで、市平均よりも10ポイント下回りました。既習内容をアウトプットする表現活動や言語活動を繰り返すことを通して、知識のネットワーク化を図り、次年度はポイントが市水準の65ポイントにまで達することを目指します。
- ・一方で、「人の役に立つ人間になりたい」は93ポイントと高くなっています。授業のグループ活動等の協働的な活動を積極的に取り入れ、年間を通じて「キャリア在り方生き方教育」や「共生*共育プログラム」を計画的に行ったりした結果、自己有用感が着実に高まってきていることが伺えます。

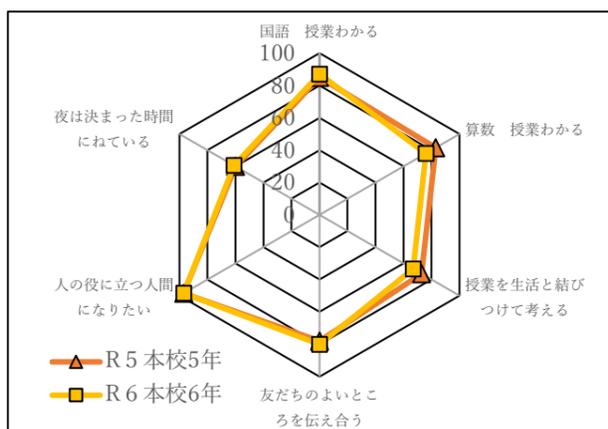
令和6年度 川崎市学習状況調査 5年生



	国語 読むこと	算数 思考・判断・表現
R6 本校5年	41	36
R6川崎市5年	47	40

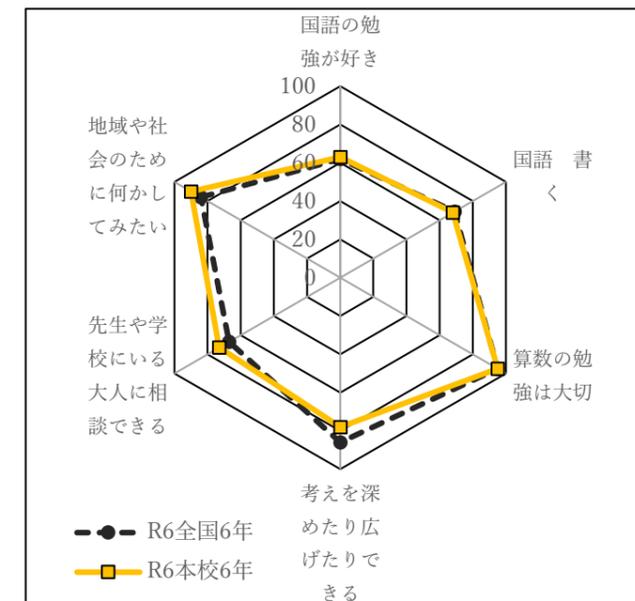
- ・「国語の授業がわかる」は89ポイントで、4年次から3ポイント上がっています。昨年度と比べ、国語の学習をより理解できていると感じている児童が増えましたが、今年度の「読むこと」については40ポイントで、市平均の47ポイントを下回りました。読書活動を充実させ、読書の機会を増やすことを通して、文章を読む力の向上を目指していきます。
- ・「友だちのよいところやがんばりを認め伝え合っている」は73ポイントで、昨年度よりも6ポイント下がりました。学習した成果をお互いに交流したり、つくった作品を鑑賞したりする場面で、教師が積極的に価値付けすることを通して、お互いに認め伝え合う心を育てていき、来年度は今年度の73ポイントよりも上回ることを目標とします。
- ・「夜は決まった時間について」は、市平均とほぼ同じ水準でした。引き続き十分な睡眠をとり、規則正しい生活を心がけるよう、保健や特別活動の授業を中心に、指導していきます。

令和6年度 川崎市学習状況調査 6年生



	国語 読むこと	算数 思考・判断・表現
R6 本校6年	59	26
R6川崎市6年	65	33

全国学力・学習状況調査 6年生



- ・「国語の授業がわかる」は87ポイントで、市平均とほぼ同じ水準でした。また、全国調査「国語の勉強が好き」は63ポイントで、全国平均をわずかに上回りました。今後も引き続き授業の中で、GIGA 端末等を活用した個別最適な学びの手法を積極的に取り入れ、児童が「楽しい」や「わかった」と実感できるような国語の授業を展開していきます。
- ・「算数 思考・判断・表現」は、市の調査では26ポイントで、市平均の33ポイントよりも7ポイント下回りました。本校では「自ら考えたことを進んで表現する子」という研究テーマを掲げて算数科の研究に取り組んでいます。来年度は10ポイント上昇を目指して、児童が生き生きと自分の考えを表現し、意見を交流することで、自らの学びが深められるような授業づくりに取り組みます。
- ・全国調査「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では「相談できる」と回答した児童が73ポイントで、全国平均の67ポイントを6ポイント上回りました。学級担任と支援教育コーディネーターとの連携を図り、引き続き児童が安心できる学校づくりに努めます。